

特別寄稿 シニア自然大学時代の思い出

シ2 松原安茂（インプリ科 平成8年から12年まで在籍）

私は42年間証券会社に勤務、退職後シニア自然大学に入学しました。
長い間あまりにも自然から掛け離れた仕事をしていて、バブル時代を迎えた時、土地、株、ゴルフ会員権、絵画、まで投機の対象になっていました。
その上、電力不足、ゴミの山、理工学部出身の学生が金融機関に多く入社するなど不自然な状況になっていました。私は21、2の時から中村天風恩師の教えを受けていて、何時も『自然法則に順応』した生きかたをするよう指導されていましたので、いずれ大きな転換期が来るのではないかと対処するように準備していました。

お陰でバブル崩壊を無事乗り切る事が出来、そんなことから退職後、シニア自然大学に入学して自然を学ぶことにしました。

万博記念公園事務所での講義と午後は公園内の植物を見学説明され、自然の不思議さや賢明さに驚かされました。

その後、研究科では、迷いなくインプリ科に入りました。
公園内のイベントや手作り工作を通じ、多くの人達、特に、子供達に自然の不思議さや面白さを体感してもらい、人間も自然の中で生かされていることを、少しでも理解しやすいように全員で色々工夫して楽しく過ごしました。

特に印象に残っているのは錦織公園での活動でした。

私の住まいから15分ぐらいの所にあり、自然を出来るだけ残された公園で、学校の遠足に多く利用されていたので、下見に来る先生に子供達を遊戯施設で遊ばすだけではなく、山道を歩きながら面白い自然観察ポイントを皆で工夫、提案、説明しながら案内しました。自然に興味なかった先生もヤマモモの葉っぱの笛が鳴ったとたんに大喜びして態度が変わり喜んでくれました。

遠足下見ガイドで知り合った先生から色々依頼されました。

- ・ 学校で校庭の中のおもしろ自然観察
 - ・ 教室の中での昔遊び
 - ・ 先生方の研究会での手作り工作のやり方。
- など、かなりの学校え行きました。

なぜ、先生方は私たちに依頼されるのか考えました。

錦織公園のイベントでの手作り工作の時、子供達は熱心に楽しんでいるのに母親たちは遠くから見ているだけ、『お母さんも一緒にやって下さい』と声かけるとしぶしぶ参加して、結局子供の方が上手に小枝のエンピツけづりが出来るようになったのをみて、気づきました。この母親たちと同年代の先生も子供時代に、自然のなかで遊んだり、家の中で道具を使って工作した経験が少なかったからだと思います

子供たちを小さい内から自然の中で遊ばせ、不思議さや面白さを体験させておく事が如何に大切かを実感しました。